

2017年度 事業報告

I 施設の設置・運営事業《公益目的事業(WAC事業)、その他事業1・2》

- 公益目的事業：WAC法に基づく施設(疾病予防運動センター・高齢者総合福祉センター・在宅介護サービスセンター・有料老人ホーム)の設置および運営
- その他事業1：疾病予防運動センターのうち60歳未満の利用者(全利用者の3割相当)に該当する部分
- その他事業2：介護老人保健施設・訪問看護ステーション・ケアプランセンター(奈良事業のみ)

*WAC(ウェルディングコミュニティ)事業:

1989年に厚生省(現厚生労働省)が「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業」としてスタートさせた施策で、地域で暮らす高齢者が健康で安心し、生きがいを持って暮らせるまちづくりをめざして、地域全体に社会福祉サービスを提供するために、健康・福祉施設を総合的に整備する事業

(1)奈良事業 (厚生労働省WAC認定事業：1990年10月17日付)

①疾病予防運動センター (WAC第1号施設) 【ニッセイ・アーク西大和】

- ・地域会員の新規獲得に向けて定期的な販促(新聞折込・ポスティング)を実施し、予算達成に向け取り組みましたが、2018年度から委託業者変更の告知により積極的な入会宣伝の見送りと想定外の退会者の増加となり、最終は厳しい結果となりました。
- ・エデンの園入居者については、新規入居者の利用増加が功を奏し、延利用者数が対前年17%増となりました。今後も入居者の健康増進面で貢献してまいります。

②診療所 (WAC第1号施設付置診療所) 【ニッセイ聖隷クリニック】

- ・施設基準による各種加算の取得や緩和ケアの充実、さらに個々の要求に応じた看取りの実践などトータルケアサービスを推進しました。
- ・外来は、ジェネリック医薬品や院外処方増加などによる投薬料の減少や介護保険利用者のリハビリ診療の打切りの影響、院内検査の減少があり、患者数予算未達となりました。
- ・入院は、病床の効率利用に心がけ、患者の状態に応じた病床転換、入退院調整など、計画的な退院支援に向けての協力体制が順調に機能し、前年度の実績を上回ることができました。
- ・有料老人ホームの協力医療機関として、その人らしい最期を迎えられるよう他部署と連携し、患者や家族との関わりを積極的に持ち、家族が患者との別れを受け入れられるような運用を開始しました。

③高齢者総合福祉センター (WAC第2号施設) 【ふれあいプラザ】

- ・基幹事業である文化教養講座は、新規講座の開講ができなかったこと及び講師都合による休講が増えたが、入居者を中心に参加者が増加しました。
- ・ホールイベントにおいては、まほろばホールで開催した演奏会が悪天候による参加者が減少したが各イベント内容については概ね好評であり、園内大ホール開催分では参加者数の平均は増加しました。

④在宅介護サービスセンター (WAC第3号施設) 【ニッセイせいれい在宅介護サービスセンター 西大和店】

- ・訪問介護については、登録ヘルパーの稼働可能時間が減少したことにより、利用者数を増やすことができず予算未達となりました。
- ・2018年3月でみなし指定の期間が終了する総合事業については、6市町村に対して事業者指定申請の準備を進め、2018年度以降も継続して指定を受けることができました。

⑤有料老人ホーム (WAC第4号施設) 【奈良ニッセイエデンの園】

- ・一般居室の新規契約戸数は22戸、退去が18戸(一般居室11戸、介護居室7戸)、介護居室への住替えが10戸ありました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は401戸(総戸数408戸)に対し入居率98.3%、入居者数511人)となり、引き続き高い入居率を維持することができました。(一般居室357戸/362戸(入居率98.6%)、介護居室44戸/46戸(入居率95.7%))
- ・入居者の平均年齢は82.0歳(男性81.0歳、女性82.4歳)となり、対前年と同様になりました。
- ・総入居者数511人のうち要介護等認定者数(割合)は年度末132人(25.8%)となりました。
- ・健康生活づくりにおいては希望者に年2回(6月、1月)「頭健康チェック」を実施。総参加者35名中13名の方に「MCI(軽度認知障害)の疑いあり」の判定が出ました。結果のフィードバックでは各個人に相応しい介護予防やクラブ活動、ボランティアへの参加等提案しました。
- ・感染予防委員会を中心に入居者や職員教育に力を入れました。入居者には感染時の隔離対応の必要性を説明し、理解と協力を得ることができました。結果、この数年感染拡大防止に繋がっています。
- ・「エデン版包括ケアシステム構築」に向けて、「いきいき生活室」設置準備や「認知症講座2017」を開講、入居者と職員が共に学び考える場をつくり始めた事で支えあい活動の輪が広がりつつあります。
- ・2018年4月から委託の食事業業者を選定するプレゼンテーションを実施し、運営連絡会入居者委員にも参加いただき、将来を見据えた大食堂の運営について園と入居者で取り組みました。

⑥介護老人保健施設 (WAC併設施設) 【奈良ベテルホーム】

- ・近隣病院、地域のケアマネージャー等へ計画的、定期的に渉外・広報活動を実施し、利用者を積極的に受け入れました。
- ・7月より、在宅復帰・在宅療養支援機能加算を取得することができ、その分収益増となりましたが、入所・ショートステイの入所者数は予算未達となりました。
- ・老朽化したベッドの交換の第一弾として、今年度は35台分購入しました。また、個室12室の改修も実施し、利用者、家族の皆様にとってより良い環境の提供が行えました。
- ・地域ケア会議や河合町地域包括支援センターが主催する勉強会に参加するなど、地域との情報共有や情報連携を積極的に行いました。また、奈良ニッセイエデンの園主催の「家族介護教室」を年4回開催しました。
- ・外部講師を招き「接遇勉強会」を2回開催し、毎月各フロアで接遇目標を設定し取り組みを行いました。

⑦訪問看護ステーション（WAC併設施設） 【 訪問看護ステーション西大和 】

- ・医療保険扱での訪問件数は増加しましたが、介護保険扱利用者の施設への入所やご逝去などで訪問件数が減少し平均利用者数、訪問件数ともに予算未達となりました。
- ・近隣ケアマネージャーや自治体の地域連携室と連携し、ターミナル期利用者の自宅看取りを実践することができました。

⑧ケアプランセンター（WAC併設施設） 【 ニッセイせいいれいケアプランセンター西大和 】

- ・河合町地域包括支援センターと町内居宅介護支援事業所と協働で、医療・介護交流会や研修会を実施しました。また、河合町ケアマネネットワーク会議への参加など、地域との連携強化に取り組みました。
- ・防災への取り組み強化のため、在宅サービス室合同の机上での非常時訓練を初めて実施しました。

②松戸事業 (厚生労働省WAC認定事業：1994年12月15日付)

①疾病予防運動センター（WAC第1号施設） 【 ニッセイセントラルフィットネスクラブ 松戸 】

- ・地域密着型スポーツクラブを目指し、住民参加型のイベントを増やしたり、ハード・ソフト両面のリニューアルを積極的に実施したりするなどして、クラブの認知度向上に努めた結果、会員数は対前年1.2%増となりました。
- ・エデンの園入居者についても新規利用者が増加し、延利用者数が対前年11.8%増となりました。その結果、入居者の基礎体力の維持増進の底上げに寄与することができました。

②診療所（WAC第1号施設付置診療所） 【 松戸ニッセイ聖隷クリニック 】

- ・ニーズの高かった皮膚科外来を開設し、遠方の皮膚科医療機関に受診していた方も、当園での専門的な治療を受けることができる体制が整備されました。
- ・電子カルテシステムを導入し、データ保存の確実性向上と職員の業務負担軽減を図りました。

③高齢者総合福祉センター（WAC第2号施設） 【 ニッセイ松戸アカデミー 】

- ・公益財団法人ニッセイ緑の財団との共催で、クリスマスリース作りなど「子ども工作教室」を年2回開催し、地域の子供たちの多くの参加があり、交流を深めることができました。
- ・定期的に発行する地域向け広報誌「ニッセイエデン便り」や財団のホームページを有効活用し、園の紹介記事を増やすなど情報発信の強化にも努めました。

④在宅介護サービスセンター（WAC第3号施設） 【 ニッセイエデンヘルプステーション 】

- ・利用者に求められる事業所を目標に、地域の情報交換会への参加、居宅介護支援事業所への渉外訪問を実施し、今何が求められているのかを把握するよう努めました。特に隣接の市川市へのアプローチを通じて、当事業所がほぼ認知されていない事が判明し、積極的に連携を図った結果、新規利用者のうち約3分の1にあたる7件が市川市からの依頼となりました。

⑤有料老人ホーム（WAC第4号施設） 【 松戸ニッセイエデンの園 】

- ・一般居室の新規契約戸数は17戸、退去が17戸（一般居室14戸、介護居室3戸）、介護居室への住替えが3戸となりました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は347戸（総戸数352戸）に対し入居率98.6%、入居者数424人となりました。（一般居室312戸／315戸（入居率99.0%）、介護居室35戸／37戸（入居率94.6%））
- ・入居者の平均年齢は84.4歳（男性83.5歳、女性84.7歳）となり、対前年+0.1歳でした。
- ・総入居者数424人のうち要介護等認定者数（割合）は、年度末で137人（32.3%）となりました。
- ・食堂業務を直営化し、今まで以上に質の高い食事サービスの提供を心掛けた結果、喫食率が対前年1.5%増となりました。
- ・介護予防や認知症対応の取り組みについて、講演会の開催を周辺地域等にも情報発信するなど、広く啓発していくことを推進しました。

Ⅱ 調査研究事業 《 公益目的事業 》

(1) 地元行政機関等と連携した地域住民への高齢期の「健康」「生きがい」「安心」「住まい」の4分野（以下「4分野」という）に関する情報提供

- ・3月に奈良施設の大ホールを利用して、「健やかな心をつくる心理学」をテーマに、大阪樟蔭女子大学准教授 佐久田祐子氏を講師に、心理学の観点から身体と健やかな心のバランスとその考え方について学ぶセミナーを開催しました。
- ・12月に松戸施設の大ホールを利用して、「健康長寿～みんなで長生き、あなたも私も～」をテーマに、予防医学と栄養の観点からいくつになっても元気で過ごすための秘訣について、隣接する東松戸病院主催の「市民公開講座」が開催されました。

(2) WAC事業の展開の中で4分野に関するノウハウ・スキルの研究と成果の関係諸機関への情報提供

- ・「高齢社会における住民主体のまちづくりの調査研究」（住民主体活動による「あんしん電話」導入事例の検証を通じて<2017年10月>）では、誰もが「あんしん電話システム」に参加できるよう、主体となる新法人（一般社団法人あんしん地域見守りネット）の設立と、クラウド型新システムを独自開発することにより、今後の多様なニーズや広範な地域にも対応できることとなりました。引き続き地域の多様な主体や活動との連携を進め、地域社会のネットワークとコミュニティづくりの動きやその人材育成について、検証してまいります。
- ・奈良施設、松戸施設の各職場内で、高齢者への提供サービス等に関する調査研究及び学会を9・11月に開催、その研究成果について地域住民や関係諸機関へ情報提供を行いました。
(社会福祉法人 聖隷福祉事業団及び一般財団法人 日本老人福祉財団との共同研究)

(3) 地域住民への4分野に関する情報提供活動の実施

- ・11月の「介護の日」に奈良施設、松戸施設内でイベントを開催し、入居者や近隣にお住まいの高齢者及びその家族に、介護・医療・福祉の知識向上に向けた取り組みを実施しました。
- ・奈良施設、松戸施設各々で、地域住民や施設利用者とその家族向けに、認知症、栄養等をテーマにした講演会・介護教室を開催するなど、介護・介護予防に関する情報提供に努めました。

Ⅲ 奨学金助成事業 《 公益目的事業 》

- ・介護マンパワーの育成を支援する観点から、介護福祉士、理学療法士、作業療法士を目指す専門学校生等への奨学金助成を行いました。
- ・1人当たり助成金は年間24万円(月2万円)、年間助成対象者は50人です。これまでの累計助成者数は684人となりました。

以上